



エストニア月間情勢報告

【2025年12月】

在エストニア日本国大使館



【12月の注目記事】

内政

●2日、タリン市議会、コルヴァルト中央党党首を議長に選出。8日にはラウドセップ市長（祖国党）を選出。

外交

●17日、ロシア国境警備隊員3人、ナルヴァ川のヴァスクナルヴァ村の防波堤でエストニア領に一時侵入。ロシア臨時代理大使を呼び出して抗議。

防衛

●11日、国防省、2027年から徴兵期間を12カ月に延長する法案を関係機関に送付。防衛力強化や新兵器導入が理由。

経済

●10日、国会、2026年国家予算案を可決。歳入186億ユーロ、歳出195億ユーロ、投資13億ユーロ。GDP比4.5%の赤字。

SNS

大使館HP：https://www.ee.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html



中村耕一郎大使インスタグラム：https://www.instagram.com/amb_japan_estonia/

大使館インスタグラム：<https://www.instagram.com/japanembassyestonia/>



大使館フェイスブック：<https://www.facebook.com/share/1Yecpayktp/?mibextid=wwXlfr>

1 内政の主な動き

- 1 日、中央党と祖国、タリン市での連立協定に署名。市民生活、エストニア語での教育、経済成長に重点。
- 2 日、タリン市議会、コルヴァルト中央党党首を議長に選出。8 日にはラウドセップ市長（祖国党）を選出。
- 2 日、国会、グリュンタル議員（元保守人民党）の議員免責特権をはく奪。議員活動用の給油カードを息子に使用させて捜査対象に。
- 3 日、カリス大統領、1 1 月に採択された労働契約法改正の手続きで憲法違反があったとして公布しない決定。採択後の条文修正を問題視。
- 3 日、祖国党の違法献金事件、党役員のマースティク議員も容疑者に。
- 3 日、国会、賭博税を減税する賭博税法改正案を可決。オンラインカジノを誘致して税収をスポーツ・文化分野に配分する狙いがあるが、税収減少や資金洗浄を懸念する意見も。
- 4 日、政府、約 2 兆ユーロ規模の 2 0 2 8 ~ 3 4 年 E U 予算計画案を支持。エストニアに 6 5 億ユーロ配分予定。
- 4 日、タルトゥ市議会、クラス市長（改革党）を再選。改革党と祖国の連立。
- 5 日、カリス大統領、兵役法改正を公布しない決定。エストニア能力が不十分な若者を徴兵しない改正は、憲法の平等の原則に違反するという見解。
- 9 日、ダニルソン＝ヤルグ元法務相（祖国党）、タリン副市長に就任したソルマン議員（同）の代理で国会議員に就任。
- 9 日、気候省、原子力エネルギー安全法案（T E O S）草案の省庁間調整を開始。消費者保護・技術規制庁（T T J A）内に独立した原子力規制機関の設立や発電所地域住民に対する給付金支払も規定。2 0 2 6 年 3 月政府審議、2 0 2 7 年 1 月 1 日施行予定。
- 1 1 日、アイヴォ・ペテルソン Koos 共同党首ら被告人 3 人、ロシアの工作活動に加担した国家反逆罪等で一審有罪判決。党首は禁固 1 4 年。2 0 2 3 年 3 月に拘束。
- 1 2 日、1 2 月政党支持率（Kantar Emor 社）：祖国党 2 4 %、中央党 2 1 %、社民党 1 5 %、改革党 1 4 %、保守人民党 1 2 %、右派 9 %、エストニア 2 0 0 党 3 %、Koos 党 1 %。中央党は 2 0 1 9 年 3 月の国会選挙以降で最高の数字。
- 1 9 日、パルツ元首相（祖国党）、ラウドセップ・タリン市長の顧問に就任。
- 2 0 日、タリン市内のショッピングセンターでの爆発事件で負傷者 1 人。前科のあるハッカーの男が容疑者として拘束。テロではなく個人的な恨みが動機の模様。
- 2 3 日、首相候補支持率（Turu-uuringute 社）：レインサル祖国党党首 1 8 %、コルヴァルト中央党党首 1 6 %、ヘルメ保守人民党党首 1 1 %、ペルリング右派党首 9 %、ミッハル改革党党首 8 %、ラーネメツ社民党党首 6 %、カッラス・エストニア 2 0 0 党首 3 %。
- 3 1 日、エストニア・フィンランド間通信ケーブル 2 本、エストニア E E Z 海域で損傷。フィンランドが同国 E E Z 海域で損傷時に現場を航行していた貨物船「Fitburg」（セントビンセント・グレナディーン籍）を拿捕。乗組員 2 名を逮捕。

2 外交・その他対外関係の主な動き

- 1～5日、プルガ文化相、韓国訪問。世界ドーピング防止機構総会にEU代表として出席しほか、文化・スポーツ・インフラ相、釜山市長、文化関係者と会談。
- 3日、ツァフクナ外相、ロシアの脅威やウクライナ支援が議題になったNATO外相会合に出席（於：ブリュッセル）。北欧・バルト・英外相会合も開催。
- 4日、セジュールネ欧州委員会上級副委員長（繁栄・産業戦略担当）、エストニア訪問。ミッハル首相と会談し、EU公正移行基金から補助金を得たNPM社永久磁石工場を視察。
- 4日、カリス大統領、バルト大統領会合に出席（於：ラトビア）。安全保障やエネルギー分野の協力に関して協議。
- 8日、サルサ＝オディフレン国連大使、2026年の国連人権理事会副議長に選出。
- 9日、カリス大統領、11月のカザフスタン訪問時に同国に配慮した駐カザフスタン・エストニア大使の助言で演説のロシア批判部分を削除したとの報道。本省の方針に反した大使は辞任へ。
- 9日、郭駐エストニア中国大使、チベット児童保護のための国会声明案やチベット支援議員グループによるダライ・ラマ訪問を非難する書簡を国会に送付。
- 12日、ミッハル首相、バルト首相会合に出席（於：ラトビア）。レール・バルティック建設やEU・NATO東部の安全保障に関して協議。
- 15日、ツァフクナ外相、カリス大統領がフィンランド紙のインタビューでハンガリーがロシアとのエネルギー契約を解除した場合の罰金支払いの支援に言及したことを批判。
- 16日、ミッハル首相、欧州東部諸国の首脳会合に出席（於：ヘルシンキ）。オルポ・フィンランド首相が招集し、対露国境の強化を呼びかける共同宣言を採択。
- 17日、ロシア国境警備隊員3人、ナルヴァ川のヴァスクナルヴァ村の防波堤でエストニア領に一時侵入。当地外務省は、ロシア臨時代理大使を呼び出して抗議。
- 18～19日、ミッハル首相、欧州理事会会合に出席（於：ブリュッセル）。2年間で900億ユーロ規模の対ウクライナ融資で合意。
- 23日、エストニア気候省、EUエネルギー同盟が運用するウクライナ・エネルギー支援基金に200万ユーロ拠出の発表。
- 26日、ミッハル首相、ゼレンスキー大統領と和平プロセス等に関して電話会談。
- 31日、エストニア、2026年の北欧・バルト諸国（NB8）地域的枠組みの議長国に就任の発表。

3 防衛の主な動き

- 11日、国防省、2027年から徴兵期間を12カ月に延長する法案を関係機関に送付。防衛力強化や新兵器導入が理由。現在は8又は11カ月。

4 経済の主な動き

- 2日、Enefit Green 社（再生可能エネルギー）、バルト・ポーランド市場に集中するためにフィンランド・トルパンヴァーラ風力発電所を売却。
- 4日、Vok Bikes 社とルノー、在仏エストニア大使館で戦略的パートナーシップ協定を締結。ルノーが同社開発の電動カーゴバイクを生産へ。欧州 14 カ国で約 500 台が既に稼働中。
- 5日、鳥インフルエンザ、ハリュ地方でキツネとニワトリの感染を確認。19日にはヤルヴァ地方の農家でも発生の報道。
- 10日、国会、2026年国家予算案を可決。賛成 51 票、反対 37 票。歳入 186 億ユーロ（前年比 +4.7%）、歳出 195 億ユーロ（+6.3%）、投資 13 億ユーロ（+32%）。GDP 比 4.5%の赤字。
- 15日、Skinest Rail 社オーナーのオレグ・オシノフスキー氏とラトビア鉄道元社長、ディーゼル機関車調達を巡る贈収賄でラトビアで 2 審有罪判決。
- 16日、カリス大統領、エストニア中央銀行総裁にカーシク副総裁を任命。2026年6月就任。
- 18日、会計検査院、2024年に国家機関で予算計 21 億 5000 万ユーロが消化されず、内 17 億ユーロは翌年の予算に繰り越された旨指摘。歳出の必要性が評価されないまま自動的に繰り越されているという批判。
- 19日、エストニア中央銀行、経済予測を発表。成長率は今年 0.7%、来年 3.6%。

5 経済関係統計（出典は特に記載がなければ統計庁）

- 第3四半期 GDP（1日）：前年同期比 +0.9%。
- 11月消費者物価指数（5日）：前年同月比 +4.9%。
- 10月貿易（10日）：輸出は前年同月比 +5%の 17 億ユーロ、輸入は +4%の 20 億ユーロ。

6 日本関連報道数

	政治	経済	文化	社会	スポーツ	その他	計
現地記者	1	0	0	0	0	0	1
キャリー	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	0	0	0	0
計	1	0	0	0	0	0	1

（注意）以上の記載内容は、エストニア国内の報道をまとめたものであり、当館としてその記載内容に責任を有するものではありません。